

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



瓦ばん!

平成22年6月20日発行 季刊

発行責任者: 根っから地元派 ばん よしはる
ban-4@ares.eonet.ne.jp

第12号

こんにちは、ばんよしはるです。暑い日が続きますが、お元気ですか。斑鳩町議会も冷房温度などの環境に配慮するため6月から「夏のエコスタイル」として暑さをしのぎやすい軽装で議会に出席しております。

斑鳩町では、奈良県内町村初のバイオマスタウン構想の推進に向け、一般家庭から出る雑草や剪定枝葉の堆肥化を行うことから剪定枝葉専用のゴミ袋を秋から、スタートします。

9月1日から1枚(45ℓ入)20円で10枚セットで販売する予定です。(排出は10月から)

いままで、雑草・剪定枝葉を入れていただいていた、可燃ゴミ袋(大-45ℓ)が45円でしたので、負担が増えるようにはなっておりません。

また、町民が心配している、老朽化してきているゴミ焼却場の機械の延命にも繋がっている事業です。これは、新設すると莫大な出費が予想される焼却炉ですから、斑鳩町のために、住民皆様の協力が必要です。

すこし、細かく説明させていただきますと、我が斑鳩町のゴミ処分場は昭和52年からスタートしており、28年を経過しております。

一般的にはゴミ焼却炉の耐用年数は15~16年と言われているのですが、部分補修を施しながら今日まで稼働できたのは、住民皆でゴミの分別をしたことやリサイクルできるものは、燃やさず原料に変換することを続けてきたからです。

今後ゴミ焼却施設を建てるには、約50億~60億円が必要とされ、用地の難しい問題も抱えておりますし、今の施設内に新しい機械に変える場合でも5億~10億円が必要とされ、この場合には取り替え工事期間中、どこかの自治体にゴミの処理をお願いしなければならず、なかなかこの自治体でもよそのゴミを引き受けてくれるところがないのが現状です。

つまり、町財政を考えてみても、次の施策を考えるのは難しいですし、又いつまでも、同じ地区にご無理を言い続けるのもおかしな話です。

難しい問題ですが、一番良い解決方法を考えていく時間をゴミの減量化という住民の努力で作り出す事が大切なことだと思っています。

また、これからの斑鳩町を考えるにあたり、必ず迎える問題として、急速な高齢化があります。

税収不足から住民サービスの低下が起こらない様にするには、新たな財源が必要になってきます。

思うに斑鳩町の特色を生かすには、年間約100万人の観光客が訪れていただいていることに着目することにより、財源確保していかなければなりません。



この「瓦ばん!」では町議会議員の毎日の中で感じたこと、活動や思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。